

令和6年度第4回安城市地域ケア推進会議及び安城市医療・介護・福祉ネットワーク協議会

日時 令和6年9月19日（木）

午後1時30分～午後3時

場所 社会福祉会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

まだまだ記録破りの酷暑で大変な日が続いていますが、やっと朝は涼しくなってきたなと思います。しかし、気温差が激しく体調を崩される人も結構いて、胃腸風邪や安城でもインフルエンザが少しずつでていますので、体調管理には十分お気を付けください。

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進のための研修会等実施報告（資料1）

・グループホーム部会

グループホーム部会)

(資料1-1)に沿って説明

(意見交換・質疑応答)

デイネット部会)

実際にグループホームはどのようなことに困られているのか、把握できない部分があるので教えていただきたい。

グループホーム部会)

一番多く挙げたのはスタッフの定着。事業所の考え方や管理者が目指す方向性をどうスタッフに伝えて、同じ向きに進んでいくか、というところに悩まれているところが多かった印象。

地域支援部会)

けあビジョンホーム安城の運営推進会議の委員として2か月に1回評価をしている。グループホームは「地域の中で生きていきたい」という思いを伺い、今年から町内会にも入っ
ていただいている。しかし、地域には施設等と関わらなくて良いという人もいる。

グループホームには認知症の人が多と思うが、地域と関わっていく場合にどのような話ができるか。

グループホーム部会)

運営推進会議には町内会等の地域の方に来ていただいている。

研修会で具体的に地域とどう関わるかの案は出ていなかった。しかし、何をやっているかわからないという状態はよくないと思っている。関わりたくないと思われる地域の方もいることは当然だが、地域に開かれた場所になるようにしていきたい。どのようなことをしているか知

ってもらおうことが一番だと考えている。

福祉センターで開催されているサロンにて介護保険のサービス紹介をしたり施設紹介をしたり、地域の祭りに車を出すなど、地域に出向いて関わりを持つようにしている。

地域の一員として認めていただけたら、という思いがある。ぜひ今後も協力していただきたい。

・地域包括ケアフォーラム
事務局)

(資料1-2)に沿って説明

(2) 情報共有・意見交換

・サルビー見守りネットについて (資料2)
事務局)

(資料2)に沿って説明

(意見交換・質疑応答)

地域支援部会)

避難行動要支援者がサルビー見守りネットに関係してくるのか。

事務局)

この ICT に関しては、医療・介護・福祉の専門職が在宅で適切なサービスを提供できるように情報連携をするためのシステムであり、災害時に特化したものではない。現段階で積極的に活用できる状態になく、今後の課題と考えている。

地域支援部会)

町内会という単語が出ていたが、それはどういった意図か。

事務局)

高齢福祉課や専門職がこのようなシステムを活用して支援をしているということをご承知おきください、という意図。

地域支援部会)

愛知県内の導入状況に関して、保健所ごとの範囲で導入しているのか。

事務局)

各市町村がそれぞれ IIJ (電子連絡帳) のサービスを利用している。

地域支援部会)

医者はこのようなシステムを使い慣れていると思う。福祉でもこのような良いシステムを使えるのであれば、避難行動要支援者の支援にも利用していただきたい。情報の入口と出口は分けなければならないと思うが。

病院部会)

病院では地域連携の窓口となる部署は登録しているが、個人の登録はあまり進んでいない。窓口から全体へ周知するかたち。実際に参加したチームでは機能が回らなかった経験がある。端末の制限等もあり、やや限定された利用になっているのが実情。

医師会部会)

全患者を登録はしていない。1，2割。写真を送ることができ、診療の計画が立てやすいなど、情報連携のツールとしてメリットがあるのは間違いない。しかし、全患者を登録すると、診療の合間で活用するには時間がない。また、答えを求められる問いかけをされることもあるが、迅速な対応が難しい。情報共有ツールとして利用方法を徹底してもらえると、医者を使いやすくなると思う。緊急の場合は電話に勝る方法はない。使い分けができるとより良いものになると思う。

歯科医師会)

現状とくにない。

薬剤師会)

報告のツールとして便利だと感じる。

訪問看護ネットワーク部会)

登録患者は全体の1割程度。その理由として、専門職でサルビーを利用している人が限られていることが挙げられる。広くその方に関わる専門職に情報共有できるのは良いと思う。しかし、利用している事業所があまり多くないという点で使い切れていないと感じる。

リハビリネット部会)

少しずつ活用している。社協とのサロン活動の調整にも利用している。アセスメント支援事業でも活用を検討している。

ケアマネット部会)

医療依存度の高い方を優先して登録している。

複数の事業所と関わっている患者の情報共有において特に便利だと感じる。

小規模多機能部会)

緊急性の高いものは電話だが、傷の処置の写真の共有等で利用している。患者全員は登録していないが、有効活用している。

デイネット部会)

サルビーに登録していない事業所が多い。デイサービス事業所が支援に入る機会が少ないのが大きな理由ではないかと考えている。デイネット部会ではまずは、サルビー見守りネットに登録をしてください、と声をかけている段階。

地域資源マップに関しても、事業所の情報を入力できていないところが多い。マップに登録はされているが、詳細が分からないような状況。まずはそれを埋めることによって、デイサービス側への要望が増えたり、活用が多岐にわたったりすると考えている。今後、1件でも多く利用が増えるような施策を考えていきたい。

ヘルパーネット部会)

訪問ヘルパーの利用者に、医療依存度が高い患者もおり、活用したいと思った。現在、登録ヘルパーから事業所の業務用携帯に写真が送られてくるが、報告のツールとして利用できそうだと感じた。その一方で、業務量が多いとサルビーをこまめに見ることが難しいのではないかという感想も抱いた。

施設部会)

主にリハビリの職員やケアマネが多く登録している。いずれは通所リハの介護職員も登録し、活動の様子や過ごし方の様子も共有できると良いと思う。

グループホーム部会)

市内のグループホームの状況は分からないが、自分の所属するホームでは導入できていない。今後活用するかについても、利用方法に関する説明をしきれないのではないかという点で難しさを感じている。

保健福祉部会)

包括、地区社協関係者は全員登録している。情報共有のツールとしてはとても良いと感じている。支援者が同じ方向性を向くことが大切だと感じる。

通知に関して、記事の登録通知等がメールにたくさんくる。通知 **OFF** にすると意識してサルビーを見る必要があるため、難しさを感じる。

部会内でサルビーの活用を進めている。直近では、部会の中での意見交換をサルビーを用いて行った。本質とは違うかもしれないが、そのような活用を少しずつ始めている。

副会長)

利用状況が1，2割とのことで、人口規模によっても違うと思うが、県内で比較すると安城

市はどれくらい電子連絡の利用が進んでいるのか。利用率の推移などはデータとしてあがっているのか。

事務局)

愛知県内のすべての登録状況を把握しているわけではない。碧南と刈谷の使用頻度が高いと聞いている。安城市は平均くらい。

副会長)

導入の際に目標としていた利用数にはある程度達しているという認識でよいか。

事務局)

この事業を推進するために、登録を増やす必要があるとは思っているが、進捗に関してはいくつか課題があると思っている。業種によっては届いていないと感じている。介護関係、訪看の方には多く登録していただいている。在宅医にはより力を入れて登録を促していきたい。

なぜ、登録が進まないのか、数年前にアンケートをとったことがある。その回答としては、従来通りのやり方（FAX等）のほうがやりやすい、というものが多かった。

今後は、サルビーを活用した業務負担の軽減を図っていきたいと考えている。まだ道半ばという認識。

副会長)

スタッフの中では、直接サルビーを開くことに慣れていない人もいる。そういった方はやはり年齢層が高めで、新しいツールは覚えられないという方が多い。そういった方に対しても、事業所間で使い方などを伝えていくなどしたい。

今年度から、障害の事業所もサルビーに登録できるようになったと思うが、障害の事業所の登録は増えているのか。

事務局)

障害の事業所が登録する場合はこの場で承認を得ることが必要になっている。現在、段階的に登録は増えている。利用率や記事の登録状況等、情報連携の進み具合は確認できていない。

障害の事業所が登録をして、在宅でのケアを行うために連携をする、そのためにはこの会議で承認を得る手順となっているので、その際はよろしくお願ひしたい。

副会長)

瀬戸市では、事業所間での災害訓練で利用していると聞いている。情報までに。

地域支援部会)

たくさんお金をかけて取り組んでいる事業だが、つまりは活用が少ないということか。他市

で導入をしているので、導入しているというだけのことか。

事務局)

活用に関してはまだ道半ば、普及啓発には力を入れていきたい。

地域支援部会)

町内会でも、新しいツールの活用を検討しているが、FAX が便利、電話が便利、という声
が大きい。

また、このような ICT 最新機器が必要になるので、安城市が補助金を出すといったプラス
面を作らないと進んでいかないのでは。例えば、もうすぐ Windows 10 のサポートが終了す
るのでこのツールを使用している事業所には Windows 11 用にパソコンを買いかえる補助金
を出すなどすれば ICT の普及につながるのではないか。

事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。

(3) 地域ケア推進会議について (資料3)

(資料3) に沿って説明

(意見交換・質疑応答)

病院部会)

出席者に関して、提案の人数をきっちりと守らなければならないか。

事務局)

原則になりますので、ご都合に合わせて出席いただければ。

訪問看護ネットワーク部会)

出席人数に関して、これも10月末までに回答しなければならないか。

事務局)

先ほど10月末とお伝えしたのは、この案に対してご意見等があれば10月末までという
意図。具体的にどなたに出席いただくかは、追って依頼させていただきたい。

訪問看護ネットワーク部会)

部会としては、2名の方が引継ぎや部会との連携でやりやすいので、確認したかった。

連絡事項

- ・おれんじフェスタのご案内
- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会（訪問看護ネットワーク部会）
 - 日時 令和6年10月23日（火）午後1時30分から午後3時まで
 - 場所 安城市民会館 3階 大会議室
 - 講師 山田万理氏 訪問看護ネットワーク部会
 - 内容 みんなで作ろうわたしノート～在宅生活を支える方へ～
 - 対象 ケアマネット部会 ヘルパーネット部会 保健福祉部会
- ・自立支援サポート会議
 - 日時 令和6年9月26日（木）午後2時～ ハイブリッド開催
- ・令和6年10月17日（木）地域ケア推進会議休会のお知らせ

次回 令和6年11月21日（木）午後1時30分～3時 社会福祉会館 3階 会議室